

事業所名

障がい児通所支援事業所 ポンボン
(居宅訪問型児童発達支援)

支援プログラム (参考様式)

作成日

2026 年

3 月

31 日

法人(事業所)理念	こどもたちの笑顔が未来を創る 笑顔溢れる地域社会を創り出すために、地域の人々と共に、医療・福祉・教育等の諸問題について必要な事業を考え行動に移していきます								
支援方針	こどももおとなも楽しくいろんなことにチャレンジし、興味や関心の幅を広げていきます。 利用児の「やりたい」を大切に「出来た」を増やす 関係各所との連携したつながりのある療育を提供する。 笑顔が溢れる安心できる居場所								
営業時間	8 時	30 分	18 時	0 分	まで	送迎実施の有無	あり	なし	※学校送迎、呼吸器利用児
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	健康状態の維持や日々の体調管理。必要な医療的ケアの提供の実施。子どもたちの障害特性や発達過程、特性に配慮しながらきめ細やかな観察を実施していく。 ・訪問時の体温測定、視診による健康状態の把握 ・それぞれの障がい特性に応じた視覚、聴覚などからの支援や環境を設定し、分かりやすく構造化する ・開始前に保護者とともに健康状態を把握する。 ・必要に応じて訪問看護等との情報共有を行う。							
	運動・感覚	遊びを通して、姿勢や運動・動作・感覚の支援を行う。 ・個々の機能評価、支援方針の決定、活動しやすい姿勢や環境設定の構造化 ・姿勢保持、関節可動域の維持、変形予防を図る。 ・保有する身体的機能を最大限発揮し、感覚の特性を踏まえ、感覚を活用できるよう遊びを通して支援する。							
	認知・行動	遊びを通して認知や行動の発達を促し、外部環境への興味を引き出す ・個々の得意な感覚を活用し、必要な周囲からの情報を認知していけるよう支援を行う。 ・製作活動や感覚遊びを通して物の属性や大きさ、形などの認知の向上を図る ・お散歩や屋外活動、季節の活動などを通して空間や季節、時間等の概念の形成を図る。							
	言語 コミュニケーション	個々の特性に応じたコミュニケーション手段の確立を図り、自己決定や自己表現の幅を広げる。 ・個々の身体機能の特性や得意な動きを活動したスイッチ操作の獲得からコミュニケーションの手段として活用できるよう支援する。 ・他事業所や学校、保育所などと情報を共有し、統一された身振り、手ぶり、サインなどを実施 ・遊びを通して相手の意図を理解し、自分の考えを伝えるなど言語を受容し表出する為の支援を実施する ・伝わる成功体験を積み重ねることで、伝えたい気持ちや伝わる喜びを感じることで他者とのコミュニケーションの意欲に繋げる。							
	人間関係 社会性	家族以外の他者とのかかわりを通して愛着形成や信頼関係の構築を図る。 ・安心して他者と関わりを持てるよう愛着と信頼関係の構築を図り、環境設定を行いながら安心して楽しめるよう支援する。 ・支援者を介在しながら自分で行えること、助けが必要なことを理解し、自分の思いや情緒の調整が出来るよう支援する。							
家族支援	・年に1〜2回程度家庭訪問による個別面談を実施。療育相談などが出来るようにする事で安心して通所し、相談できるような環境と信頼関係づくりを行う ・保護者交流会の実施で保護者同士の交流を図り、情報交換が出来る場を「設定する				移行支援		・就学など環境の変化に適応し、スムーズに次のステップに進めるよう支援していく。 ・就学に向けた情報共有 ・学校との連携からつながりのある支援を実施 ・訪問療育から通所への移行支援の実施		
地域支援・地域連携	・相談支援事業所、利用児が利用する他事業所や学校等と日常的に情報共有を行い、密な連携を図る。 ・関係する児童発達支援事業所などのイベントの参加したり、自宅周辺の散歩などを通して地域の環境を知り交流を図る。				職員の質の向上		・面談実施(年1〜2回) ・研修会の実施(適宜) ・定期的なミーティング		
主な行事等	春；花見、地域への散歩 夏；プール、夏のイベント(児童発達支援のイベントに参加) 秋；おでかけ、運動会(児童発達支援のイベントに参加) 冬；クリスマス会、餅つき、保護者説明会、保護者交流会								